

# 2025年国際博覧会検討会 報告書骨子（案）

経済産業省

平成29年2月15日

# 報告書目次（案）

## 第1部

### 2025年国際博覧会のコンセプト

1. 開催意義
2. 基本理念（骨子案）
3. テーマ・サブテーマ（案）
4. 事業展開

## 第2部

### 2025年国際博覧会の円滑かつ効果的な開催に向けた考え方

1. 開催場所
2. 開催期日・期間
3. 開催主体
4. 会場規模
5. 入場者想定規模
6. 輸送・宿泊計画
7. 関連基盤整備
8. 長期的地域整備
9. 環境への配慮
10. 開催経費
11. 経済波及効果

---

参考資料：展開事例集、2025年以降の関西・日本・世界の在り方（検討会委員からのコメント）

# 第1部 2025年国際博覧会のコンセプト



# 1. 開催意義

## (1) 国際博覧会が有する意義

- ① 人類共通の課題解決に向けて、先端技術など世界の英知を集め、新たなアイデアを創造・発信する場
- ② 世界の多様な文化や価値観を共有し、相互理解を促進する場

⇒他方、インターネットや仮想現実技術が普及していく現代においては、今後国際博覧会の意義を高める方策を検討すべき。

(例：インターネットや仮想現実を活用し、会場に来られない人も参加できる/したくなる国際博覧会の検討)

## (2) 開催意義

### <日本にとっての開催意義>

- ① 国際社会における**日本への理解・信頼**の向上（日本的価値の発信とともに人類共通の課題解決に貢献）
- ② 世界の多様な文化や価値観の交流により、技術や社会システムの**イノベーション**を喚起（平均約20万人/日の来場）
- ③ 未来社会の**実験場**とすることで、国内外の課題解決を推進し、国民に夢のある未来像を示す
- ④ 国際博覧会開催を契機にした**需要喚起**（2020年オリンピック・パラリンピック東京大会後）

### <関西・大阪にとっての開催意義>

- ① 関西に強みのある**ライフサイエンス分野**について、イノベーションを喚起。
- ② 心身ともに**健康**になり、**多様**な文化や価値観が共生する、誰もが住みやすい**地域づくり**を促進。
- ③ 関西の幅広い地域で、**国内外の観光需要**を取り込む。

# 1. 開催意義

## <世界にとって日本で開催する意義>

### ■ 日本で開催する意義

- ① **多様な文化・価値観を受け入れ、融合してきた歴史**から、参加主体の交流・相互理解を推進できる。
- ② 最も**高齢化**が進み、かつiPSなどの**生命科学の先端**を走るなど**健康寿命の延伸**が進む国として、世界の高齢化にも適した新たな社会制度の設計に貢献。

### ■ 関西・大阪で開催する意義

- ① **歴史的に日本政治の中心地**として機能し、和食や伝統芸能、お笑いなど**豊かな文化の発信地**。
- ② 関西国際空港や大阪湾など**世界から交通アクセスが容易**。
- ③ 高い**技術**を持ったものづくり企業や医療研究拠点等の立地を活かし、イノベーションを促進。

## (3) 2025年に開催する意義

- ① **東日本大震災と原発事故を経験**した日本だからこそ、技術の可能性とリスクを踏まえた、未来社会を議論できる。
- ② **1970年大阪万博から半世紀経った**今、不均衡が拡大する中で、人類の生き方を改めて問う必要。

## (参考) 1970年大阪万博 (テーマ: 人類の進歩と調和) における基本理念①

開けゆく無限の未来に思いをはせつつ、過去数千年の歴史を振り返るとき、人類のつくり上げてきた文明の偉大さに、私たちは深い感動をおぼえるのである。**特に近代における科学と技術の進歩は、人類の生活の各方面にわたって人々がその前夜まで想像もし得なかったような大きな変革をもたらした。**しかも文明は更に前進の歩みをはやめ、人類の未来の生活は今日の私たちの予想を遙かに越えたものとなってゆくであろう。

万国博覧会は、1851年にロンドンで第1回が開催されて以来、欧米の各地において開かれてきた。そしてそのときどきの世界各国の創造的活動の成果を集約的に展示して、それぞれの時代の進歩を確認し、新しい発展への強い刺激を提供することによって、人類文明の向上に大きな役割をはたしてきたのである。私たちも、1970年を期して、大阪において、国際博覧会条約にもとづく万国博覧会を開催しうることとなった。私たちは、過去における万国博覧会の慣例と成果を尊重しつつ、しかも東西を結ぶ新しい理念にもとづいて、この**アジアにおける最初の万国博覧会**を人類文明史にとって意味あるものであらしめたい。すなわち、現代文明の到達点の指標であると同時に、未来の人類のよりよき生活をひらくための転回点としたいのである。

しかしながら、世界の現状をみると、人類はその栄光ある歴史にもかかわらず、多くの不調和に悩んでいることを率直に認めざるをえない。技術文明の高度の発展によって、現代の人類は、その生活全般にわたって根本的な変革を経験しつつあるが、そこに生じる多くの問題は、なお解決されていない。さらに**世界の各地域に大きな不均等が存在し**、また、地域間の交流は物質的にも精神的にも、著しく不十分であるばかりか、**しばしば理解と寛容を失って、摩擦と緊張が発生**している。**科学と技術さえも、その適用を誤るならば、たちまちにして人類そのものを破滅に導く可能性**を持つにいたったのである。

## (参考) 1970年大阪万博 (テーマ: 人類の進歩と調和) における基本理念②

**このような今日の世界を直視しながらも、なお、私たちは、人類の未来の繁栄をひらきうる知恵の存在を信じる。**しかも、私たちは、その知恵の光が地球上の一地域に局限されて存在するものではなく、人間あるところすべての場所にあまねく輝いているものであることを信じるものである。この**多様な人類の知恵がもし有効に交流し刺激し合う**ならば、そこに高次の知恵が生まれ、**異なる伝統のあいだの理解と寛容によって、全人類のよりよい生活に向かつての調和的發展をもたらすことができる**であろう。

1970年の日本万国博覧会は、このような信念と希望にもとづいて設計されるものである。世界のすべての国民がそれぞれに発展させてきた英知とその成果を、誇らかにここに持ち寄られることを期待する。そこに人類協和のよろこばしい一つの広場が出現するであろう。**ながい孤立を脱して世界に門戸をひらいてから百年をへた日本**が、いまこうした博覧会を開催ししうるにいたったことは、この上ない喜びである。

いまこそ新しい時代が始まらねばならない。20世紀は偉大な進歩の時代であるが、同時に今日までは苦悩と混乱を避けることができなかつた。**私たちはこの世界を、完全な平和が支配し、真に人類の尊厳と幸福を讃えうるところのものとして、次の世代につたえたい。**この万国博覧会がそのようなよき時代への転回点として役立ち、その場所と機会を提供しえたとするならば、私たちの光栄はこれに過ぎるものはないのである。

## (参考) 2005年愛知万博 (テーマ: 自然の叡智) における基本理念

**自然は人間に惜しみなく、その富を与え続けてくれた。** 生み出す力を持った自然は人間に叡智を与え、技術の力を使って、自分の中から、エネルギーや資源を取り出すことを、許してきた。しかし、人間はその恩恵に対して、十分にむくいることがなかった。そのために、**自然は人間への愛を、失い始めている。**

だから、21世紀に、私たち人間が取り戻さなければならないものは、自然と生命への共感に満ちた、叡智のふるまいなのである。技術は、いたずらに自然を制圧し、取り返しのつかない改造をもたらすものとして、人間に与えられた能力ではない。それは、自然の中に隠されている、自然自身の本質を、あらわにし、輝きださせるための技なのだ。それは、生命を抑圧したり、管理するのではなく、生命の中から、そこにおさめこまれている無限の情報を取りだして、この世界に豊かな意味をもたらす通路を、つくりだすこともできるのだ。

私たちは自然と生命の語りかけるものに耳を傾け、お互いの呼びかけの中から、そこに叡智に満ちた新しいインターフェースをつくりださなければならない。**技術がリードする文明に、もう一度失われた叡智を注ぎ込み、私たちの心に、慎ましさと謙虚さを取り戻し、人間と自然との、人間と人間との、壊れかけた関係に、豊かな回復をもたらしたい、と願うのだ。**

その試みが、日本の小さな森で始まろうとしている。そこには、21世紀の人間にとって必要なものの全てがある。**この森で行われる実験は、人間に共通の課題に、一つの魅力的な回答をもたらすに違いない。**地球上の人間が現在手にしている、技術と芸術と精神文化の可能性のすべてを結集して、**この森を、自然と生命への叡智の限りを尽くした、来るべき時代の地球文明のひな型として、創造してみよう**と、私たちは提案する。



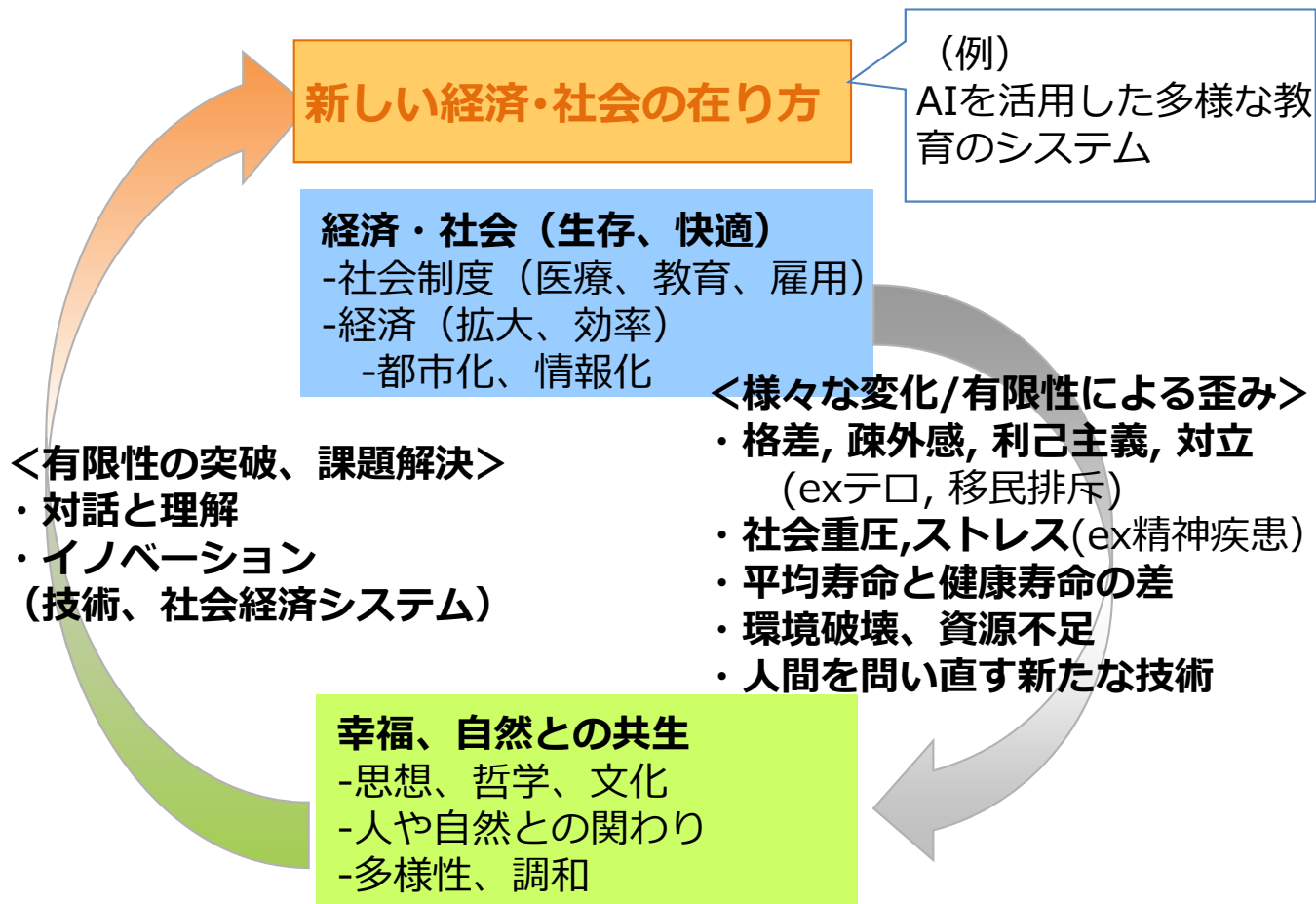
## 2. 基本理念（骨子案）

### （1）これからの人類の生き方とは

① 経済社会システムの構築と技術革新により、人類は**安定的な生存環境**の獲得や、**快適な暮らし**を追求している。

② しかし現在のシステムや技術は**様々な変化や有限性**により、歪みを生じさせている。効率性の追求は、人間に過度なストレスを与えていないか。新たな科学技術は自然・生命にどこまで介入できるのか。

③ 近年は愛知万博を始め環境問題が多く取り上げられているが、こうした歪みを抱える今の時代こそ、**幸福かつ持続可能な人類の生き方を改めて問う**べきではないか。



### （2）好奇心を刺激し、幸福な生き方や経済・社会の未来像を共創する

・今後生じ得る様々な変化の中で、未知への恐怖ではなく、好奇心を刺激し、**1人1人が望む生き方、それを支える経済・社会の未来像を参加者とともに提示。**

・参加者の行動を促し、**新たな社会変革**への動きにつなげるような万博へ。

### 3. テーマ (案)

いのちを支える社会の創造  
(Creating next society for our Lives)

共に輝く生命、輝き続ける地球  
(Flourishing Our Life on the Sustainable Earth)

人類の進歩と幸福の再考  
(Re-thinking Human Progress and Happiness)

※1970年大阪万博のテーマは「人類の進歩と調和」“Progress and Harmony for Mankind”

未来社会をどう生きるか  
(Designing Our Lives for the Future Society)

#### 【留意事項】

◆2022～23年の国際博覧会に下記の国が立候補 (括弧内が開催年、都市、テーマ)

- ・米国 (2023年、ミネアポリス、**全ての人の健康と幸福(well-being) : 健康な人々、健全な地球**)
- ・ポーランド (2022年、ウッチ、**都市・再創造**)
- ・ブラジル (2022年、リオデジャネイロ、**大都市と国境を越えた持続可能性のポテンシャル**)
- ・アルゼンチン (2023年、ブエノスアイレス、**人類の発展のための科学、イノベーション、芸術と創造性**)

※選挙は2017年11月の予定。

## (参考) 前回の検討会における、テーマや基本理念に対する主な指摘

- “Mankind”
- 子どもからお年寄りまで
- 人類の未来の豊かさ

全人類に資する

- 若者
- 2030年
- “Future” “Forward looking”

未来・若者

- こころの在り方、笑顔はこころのインフラ
- こころ、志

こころ

- ワクワク感
- “Exciting” “Creative”

ワクワク

- 寛容の精神
- 新しい生き方、新しい社会の在り方
- 辺境の地に生きる英知
- 世界の多様な価値観の受容

日本らしさ

- 地域の継続的发展
- 食

# 3 - 1. サブテーマ (案) について

## サブテーマの構成要素

### ① テーマの表現方法

- ◆ 科学技術 (science and technology)
- ◆ 多様な文化、思想 (culture, ideas)
- ◆ 交流・対話、相互理解 (exchanges, dialogue, mutual understanding)

### ② テーマの内容

- ◆ 健やかな (well-being, healthy, happy)
- ◆ 多様な、思いやりのある、調和的な、寛容な (diverse, kindly, harmonic, tolerant)
- ◆ 持続可能な (sustainable)



- ◆ 生き方 (例: 学ぶ、働く、余暇) (lifestyle)
- ◆ 経済・社会システム (例: 教育、労働、社会保障) (socio-economic systems)

#### 参考①：大阪府案のサブテーマ例

- ◆ 科学と技術の発展、その応用
- ◆ 生活と文化の多様性の尊重
- ◆ 地球環境の保全と共生

#### 参考② 1970年大阪万博のサブテーマ

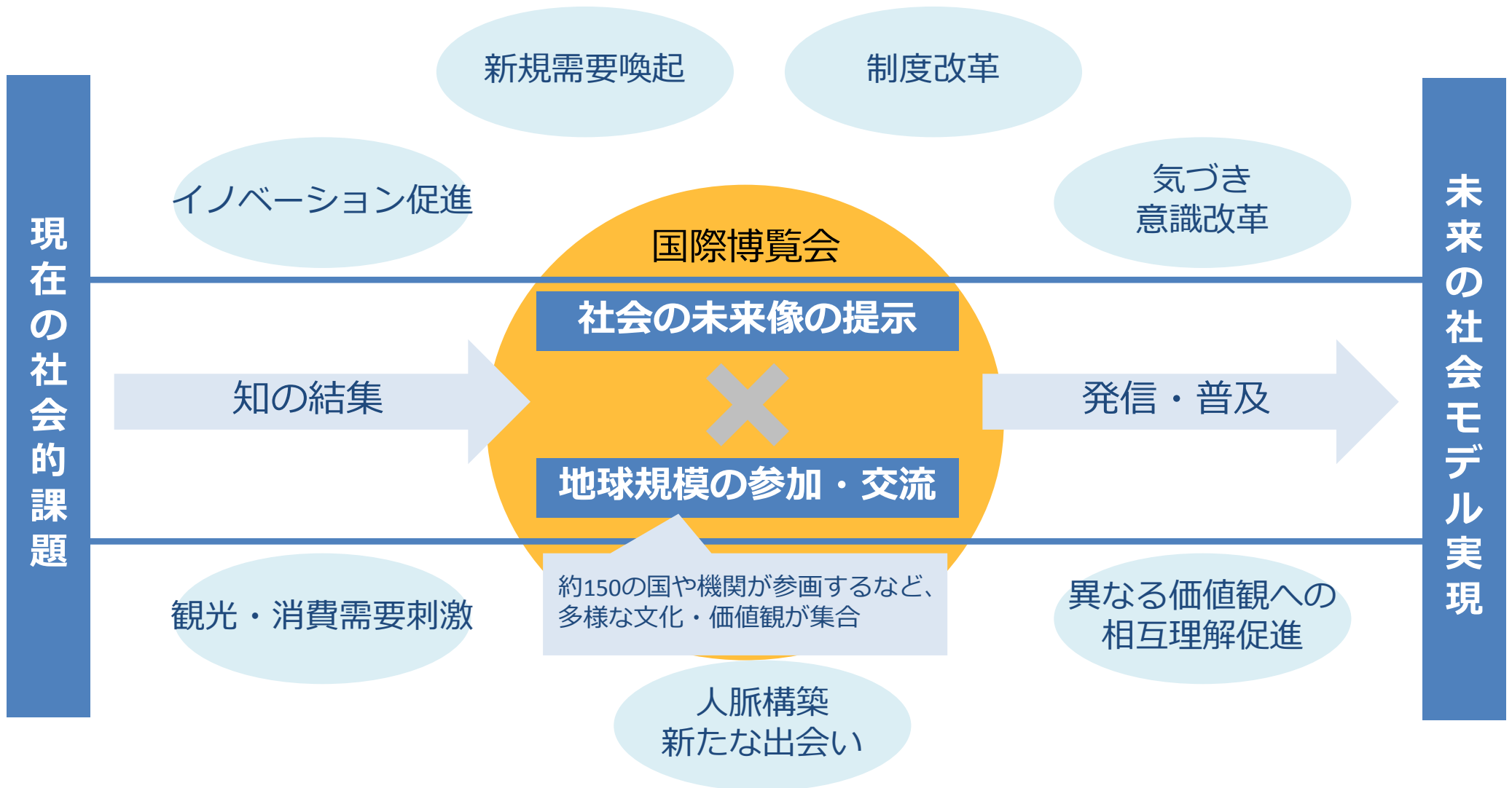
- ◆ よりゆたかな生命の充実を
- ◆ よりみのり多い自然の利用を
- ◆ より好ましい生活の設計を
- ◆ より深い相互の理解を

#### 参考③ 2005年愛知万博のサブテーマ

- ◆ 宇宙、生命と情報 (Nature's Matrix)
- ◆ 人生の“わざ”と智慧 (Art of Life)
- ◆ 循環型社会 (Development for Eco-Communities)

## 4. 国際博覧会の特徴・国内外への効果

- 約150の国や機関が参画する場を活かして、現在の社会的に課題に対して世界の叡智を結集させ、**未来の経済・社会システムやライフスタイルを共創し、世界に向けて発信・普及させることで、未来の社会モデルを実現させる。**



## 4. 事業展開の方向性

- 娯楽が溢れる中、来場したいと思えるようにするため、**従来の概念を覆すような斬新な万博**を実施することで、**世界の好奇心を刺激し、世界を魅了する**。
- 2025年国際博覧会を一過性の祭りに留めるのではなく、世界各国から数千万人が共通の経験をするという貴重な機会を活かし、**一人一人が世界中の諸問題に向き合い、考え、行動を起こすことで、世の中を動かし結果を残す有意義な万博とする**。

### 常識を越えた万博

#### 無我夢中・元気になる

- ・ 並ばない、疲れない。
  - ・ 好奇心や幸福感を刺激（一時的な快樂ではなく）。
  - ・ 主体的に取組み夢中になれるコンテンツ。
- 心身ともに元気になる万博へ。

#### 地球規模の参加・交流

- ・ 多様な価値観、主体。
- ・ 自動翻訳技術で言語の壁を越える。
- ・ 次世代を担う若者も万博の事業展開の企画から実行までを担う。

#### 意見の見える化・対話

- ・ 参加者が、望む未来を発信。参加者同士による双方向の対話により、人類が望む未来像が見えてくる。

#### 参加の概念を変える

- ・ VR（仮想現実）を活用することで、来場できない人にも刺激的な体験を提供。

先進国・途上国も  
出展しやすい万博

#### 有言実行

- ・ 行動を起こしたくなるようなインパクトのあるコンテンツ。
- ・ 参加者が、望む未来像に向けて簡単に行動を移せるような仕掛け。

#### 不完全を楽しむ

- ・ 失敗があるからこそ、改善し次に進める。幅広い社会実証に寛容な万博へ。

#### 未来の社会モデル定着

- ・ 一定数以上の人を選んだ制度、サービス/ライフスタイルの実現を、政府や企業が支援。
- 参加者が望む未来像（経済社会システム、モノ・サービス）を実現。

皆で世界を動かす万博

## 4. 事業展開アイデア

- 検討会委員から要望も踏まえ、国際博覧会開催時（2025年）に社会の中心となる**大学生や若手ビジネスマン・クリエイター・関係省庁などの声（※）**を集め、**第2回検討会以降に提示。**

※ 2025年国際博覧会を用いた事業展開に関するアイデア

### ▶ 事業展開のアイデアの一部御紹介

#### 【AI・ロボット】 人民の、ロボットによる、人民のための街

昼は人間のスタッフが来場者をもてなすが、夜は会場案内、各種サービス提供を完全にAI・ロボットのみが行う。ロボットは日本のアニメ等のキャラクターを模したものを積極的に用いる。また、全てAI・ロボットなので、失敗しても良いことを前提にした時間や空間とする。

#### 【ビッグデータ】 Better Life From Data

ウェアラブルデバイスや非接触センサー技術等を活用して来場者のデータを取得し、個人に最適化された健康サービスや食事等を提供。

#### 【医療】 地球規模の医療平等を目指すAR/MR診療所

診療所を規格モジュール化し、AR技術で世界中どこからでも診療可能とし、世界のボランティア医師が途上国等の医師不足地域の患者を無料診断することで、先進国・発展途上国に限らず世界中の医師が診断する地球的医療平等を目指す。

#### 【食】 健康的な未来を実現する食と農の発信

日本の健康・長寿を支えている食と農について、科学的根拠をもってPRできていない。このため、日本の食と長寿の関連性、発酵食品の知られざる力などの研究を進め、先進的な加工技術と併せてPRしていく必要があるのではないかと。来場者に、万博会場や周辺の農山漁村などで、見る、つくる、食べる、泊まるといった様々な体験をしてもらい、これらを通じて農林水産物・食品の輸出拡大や農山漁村のインバウンド需要の拡大につなげるとともに、日本の「もったいない」の思いや先端技術を活用した効率的な農業や食産業を発信し、世界の持続可能な食に貢献する。

## **【スポーツ】 Sports For Everyone**

運動が苦手な人も含めて、皆が運動を楽しめるように、ベビーバスケットなど運動神経があまり関係のない「ゆるスポ」や仮想空間でのスポーツ対戦など気軽に参加できるスポーツを実施。

## **【エンタメ】 世界お笑いグランプリ**

世界各国のお笑いを集めてグランプリを開催。全世界で開催前に予選を行い、勝ち抜いた人が関西地域の色々な地域で行われる本選に参加。地域の人も世界の笑いの文化に触れられる。そして、決勝戦は万博会場で実施。

## **【アニメ】 会場丸ごと仮想現実**

ARやVR等を活用してアニメやゲームのキャラクターと“リアル”に出会える会場。スマートフォンやポータブルゲーム機等で操作キーを動かして遊んでいたゲームを、現実世界で身体を動かしながら楽しめる。また、バーチャルのキャラクターに加え、来場者がコスプレをすることでその世界観は確立されていく。

## **【美容】 美博**

「美」は人生を彩る。世界の中では収入の大半をファッション・理美容に用いる人々もいる。美の体現に欠かせないファッション・理美容について、世界各国の伝統的な文化・手法等を紹介するとともに、IoT等の最新技術を取り入れた個人に最適化されたサービス等を提供する。

## **【住宅】 エキスポレジデンス**

パビリオンの中に宿泊できる。そのホテルは、未来の「住」をテーマとした体験型アクティビティ。

## **【シェアリングエコノミー】 関西全体をシェアリング・エコノミー化し来場者におもてなし**

関西の企業や個人から、万博のために提供出来るリソースを募集。例えば、資金・車・人などが考えられ、それらでのトータルシェアリングサービスを展開。皆で少しずつ協力することで省予算化と地域の参加意識向上が期待できる。

## **【モビリティ】 モビリティ革命**

万博では、豪華客船、自動走行車、ドローン・ヘリコプター、ハイパーloopなどの非日常的な乗り物が当たり前のように使われている。乗車時間は、単なる移動時間ではなく、エンタメの時間として来場者にワクワク感を与えてくれるだろう。



## **【人材育成】 Enjoy Working**

仕事はあくまで給料のために取り組む辛いもの・・・だろうか？AI等の発達により、比較的単純な仕事が減っていく中、楽しんで取り組むことができる創造的な仕事を、仮想現実を活用してリアルに体験できるプログラムを提供。

## **【人材育成、レジャー、健康】三種の神技**

モノ消費からコト消費に大きく転換してきた昨今、リッチな人が手にしているのは、カラーテレビ・クーラー・自動車ではなく、「楽しく学び・働くこと」「楽しく余暇を過ごすこと」「心身共に健康でいること」など、新たな三種の神技ではないか。

## **【社会実験】街を育む**

夢洲が現在ほぼ更地であることを利用して、都市形成に関わる社会実験を行い、新しい都市モデルを構築する。先進事例を、日本各地の都市に適用することで、街を育てていく。

## **【社会実験】夢洲会場を海外とみなすスーパー特区とし世界とつなげる**

夢洲会場を海外とみなすスーパー特区とし、海外からの来訪者は入国手続き等が不要。より気軽に海外との交わりが可能であり、非課税環境下で新ビジネスの考察も可能。陸海の周辺インフラを充実し、京阪神地域毎の技術・エンタメ等のフリンジ事業を開催。

## **【交流】万博婚**

数千万人が来場する万博で、遺伝子データを活用したマッチングなど、新しい出会いを応援する。また、万博会場で、結婚式をあげることも可能とし、幸せを来場者にお裾分けする。

## **【中小企業、伝統工芸】ワザ展**

中小企業や伝統工芸品職人等の巧みのワザ（技術）を実演含めて紹介し、来場者は達人の美技に酔いしれる。

## **【ベンチャー支援】万博ドリーム**

実現したい夢がある人が、その思いや事業プラン等をテレビでプレゼンし、視聴者や投資家等がリアルタイムで採否を決定する。採用されたプランは、ビジネスプランであれば視聴者の少額投資（クラウドファンディング）や投資家等のサポートにより事業化し、政策プランであれば国や自治体がサポートして政策への反映に繋げる。

## **【マイクロファンディング】月の塔**

1970年大阪万博の記念モニュメント「太陽の塔」と対に「月の塔」を作成。開場時は真っ黒な新月だが、来場者が黄色いタイルを購入して、思いを書いて貼っていくことで、閉会時には綺麗な満月になる。

## **【VR】世界同時体験**

来場できない人々も心から参加したくなるようなコンテンツをVR等の新しいメディアを用いて世界中に配信することで、万博という共通体験を楽しんでもらう。

## **【VR】体感型VRによる世界リゾートDayの開催（各国のリゾート観光促進）**

心と体を癒す世界の観光・リゾート地を、VR技術により、万博会場に忠実に再現。世界の各地が日替わりに観光リゾート地をアピールする「○○リゾートDAY」を開催。世界各地が世界に向けて観光地をアピールできる場所を提供。

## **【会場構想】Around Kansai**

来場者は、万博会場で関西全域の歴史、文化、自然、産業を体験することができ、気になった観光地等のチケットがその場で発券され、シームレスに各地に旅行することが可能。関西各地は、万博でのインバウンド需要の機会を活用するべく、会期前から、観光資源の研鑽や産業の集積など街おこしを行い、地域を活性化させる。

## **【会場構想】待ち時間ゼロの博覧会**

パビリオンごとに事前に観覧予約を受け付けて時間が近づくと来場者を呼び込むシステムや、待っている間も楽しめるコンテンツ（大道芸、パレード等）を提供することで「待たない博覧会」を実現。

## **【会場構想】Stress-free City**

物理的・文化的な障壁なく、世界中から数千万人がストレスフリーに楽しめる万博を実現するべく、ドローンによる空の移動や、FinTechを活用した全面自動決済、ハラール等の多様な文化に対応した食事、バリアフリーの会場にする。

## **【環境】自然との共生**

都市生活に疲れた人々に自然の中で過ごしてもらうべく、会場内に緑やオアシスを多く配置するとともに、関西全域で自然を楽しむアクティビティを提供。太陽光や風などの「自然エネルギー」を受動的に利用するパッシブデザインや風力・太陽光発電など自然をいたわる技術を活用した万博会場運営を実施。

## **【営業時間】朝の顔、夜の顔**

パビリオンが開いていない早朝や夜も万博を楽しむ。例えば、出勤前の早朝にヨガ・太極拳・ランニングなどで汗をかき、仕事終わりの夜には飲み会やダンスパーティなどナイトアクティビティを楽しむ。

## 第3回検討会に向けた、委員の皆様へのお願い

2025年以降の関西、日本、世界の在り方について、委員の皆様のお考え（案）をお示しいただきたい（社会像、制度、関西のまちづくりなど）。

この「委員の皆様のお考え」について、第3回検討会で相互にフィードバックを行う。同議論を踏まえ、委員の皆様のお考えを報告書の参考資料として、とりまとめたい。

（例）

- ◆ 高齢者が生き生きと暮らせる社会にするため、〇〇の環境をつくっていききたい。
- ◆ 他人への寛容性が高い大阪の特徴を生かし、イノベーションを喚起するような公共空間を設計し、世界で最も住みやすいまちづくりを進めることで、医療やITのイノベーターが集まる都市にしていききたい。
- ◆ 新たな革新的技術の到来に備え、〇〇を変えたい。